

公立小野町地方総合病院情報

町では小野町第三次振興計画後期計画や平成17年度町重点施策による、「公立小野町地方総合病院の支援」を掲げています。今月も町民の皆さんの理解を深めていただくため、地域の生活基盤に重要な役割を果たしている総合病院について、その診療内容などを紹介します。

診療科目紹介

心療内科

桃生寛和
上村勝人



検査室のもよう

公立小野町地方総合病院では、平成17年5月より毎週水曜日（休日は休診）午前9時から午後5時まで「心療内科・漢方外来」を開設しました。心療内科とは、ストレスや疲れによって起こる病気の患者さんに、体と心の両面から診断と

治療を行うものです。ストレスによる胃腸障害や高血圧などの場合、身体面と心理面の両方から治療をした方が良いと言えます。また、人生には種々のライフイベントがあり、それによって私たちの心は大きく揺れ動き、不安、緊張、不眠、うつ状態などになってしまふこともまれではありません。このような時に適切な心のケアを受けることは、以後の充実した人生を送るうえで不可欠と考えられます。

ストレス病は誰でもなる可能性があります。最近では、芸能人がテレビで自分のストレス病について話すこともあり、目にされた方もいらっしゃるのではないかと思います。どうぞお気軽に、心療内科を受診なさってください。

漢方外来

現代医学を専門とする医師の70%以上が日常診療の場で漢方薬を使っていると言われます。漢方薬は、自然の生薬を組み合わせて作られます。漢方薬も使

い方を誤れば副作用が起こりますが、西洋薬と比べると効き方が穏やかで、「体に優しい」という信頼感があるようです。また、健康保険も適用になります。近年、生活習慣病などの慢性疾患が急増し、総合的な視点から治療力を高める漢方薬の重要性が高まっています。

体調が悪くて病院で検査を受けても、どこにも異常が見つからず、医師から「どこも悪いところはありません。気のせいでしょう」と言われ、つらい思いをしている人もいます。体力低下、更年期障害、月経困難症、慢性の胃腸病、肩・腰・膝の痛み、水太りタイプの肥満、にきび、感冒・咳など、漢方外来にて是非ご相談下さい。

薬局情報

薬局長 渡辺 清

お薬の飲み方について、最近では、水なしでも飲むことのできる錠剤も一部出てきています。数滴の水で溶けてしまふもので、舌の上に乗せると溶け始め、唾液だけで飲むことができます。しかし、ほとんどのお薬は、水なしで飲むとどやお食道につかえたり、誤って気管に入ることもあります。お薬はコップ1杯程度の水と一緒に

診療まめ知識

～高血圧症と薬～

高血圧の薬は働きからみると大きく2つに分けられます。1つ目は血管を広げて血圧を下げるものです。血圧を上げるホルモンの働きを抑えるものや、血管収縮に必要なカルシウムが血管の細胞の中に入るのを邪魔して血管を拡張させるものなど、4つのタイプがあります。2つ目は血液の循環量を減らすものです。利尿剤とポンプ役の心臓の働きを抑えるものの2つのタイプがあります。高血圧症の人には、食事・運動療法の次に、他の病気があるかなどを考慮して最適な薬の種類と量が処方されます。血圧の薬を何種類か飲んでいる方もいらっしゃると思いますが、これは違ったタイプの薬を組み合わせると副作用を少なく効果的に血圧をコントロールするために行われています。血圧の薬の中には、グレープフルーツジュースを飲むと薬が効きすぎるものがあったり、その他飲み合わせに注意が必要な薬もあります。患者さんにはお薬説明書などをお渡ししていますが、薬に関することは何でも気軽に問い合わせ下さい。



飲みください。また、寝たままでお薬を飲むと、立って飲むと長くとどまり、炎症の原因になることがあります。患者さんが寝たきりの場合には、上体を起

こしてから、お薬を飲んでもらうようにしましょう。その後も2〜3分は体を起こしたままの状態にしてください。錠剤をかみ砕いたり、カプセルを外したりして飲むと効果がなくなってしまう場合もありますので、そのまま飲みください。どうしても飲みにくいという場合は、医師や薬剤師に相談してください。水剤は、よく振り混ぜ、1回服用分を正しく計り取ってお飲みください。ほとんどのお薬は1回服用分を適量の水で薄めてもかまいませんが、飲み残しのないようにしてください。